

報告集発刊に寄せて

技術部長 田頭 孝介

昨今の技術革新はめざましいものがあり、それを工学が支えているといっても言い過ぎではない。本学でもここ数年、多くの研究室で新しい研究課題に挑戦し、かつ学部・大学院の教育方法にも改善が図られてきた。それと平行して、旧来の教育研究機器とは原理・機構が大幅に異なる大型機器が導入されてきた。このような職場環境の変化に呼応して、技術職員もまた常に新しい知識や技術を仕込んでいかなければならない。その役割は地味ではあるが重要である。

昨年4月学内措置として技術部が発足した。技術職員のあり方、資質の向上、職場内での技術・技能の伝授などを全学的視野で議論できるようになった。ただ、本学の技官定員は教授定員の半分にも満たない。定員がそう簡単に増えない以上、当面は将来の本格的な組織化に備えて、現在いる技術職員の能力を向上させ、学内環境を整備することが大切であろう。技術部ではこの1年間「職場に必要な新しい技術を身につけ発揮できる」ことを念頭に置き活動してきた。それと同時に、常時学生と接する職場であることを考えると、個々の技術力を磨くだけでは不十分で、相手にその技術を正確に伝達する能力を備えることが課題でもあった。

その意味では、本年3月に実施した第1回技術部報告会は予想した以上の成果であったと評価できる。各自の研鑽内容を口頭で発表する技術を錬成し合う場となったからである。この報告集の発刊はその第2弾とも言うべきもので、筆記による表現技術を磨く機会でもあった。各自が研究室で機器類に向かう合間に文章を書き、先輩技術職員ときには教官が手を加えできあがったものである。ほとんどの技術職員にとってこのような作業は初めての経験であり、口頭発表とはまた違った苦勞を味わったことであろう。いくら手直しをしても完璧と言うことのないこの種報告書の公表には恐らく苦痛があることと思う。それを承知であえて技術部関係者以外の方々に広く配布する次第である。忌憚のないご意見ご批判を受け、技術職員の資質向上につなげたい。本学技術部の発展のために、多くの皆様のご協力をいただきたい。